

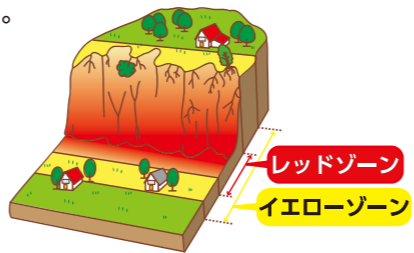
土砂災害について

土砂災害の警戒区域

土砂災害警戒区域等は「土砂災害防止法」に基づき、北海道が指定しています。市内には、「急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）」、「土石流」への注意が必要な区域が70カ所以上ありますので、日頃から確認しておくことが大切です。また、近年、全国各地で頻発している集中豪雨や土砂災害から命を守るためには、今までは大丈夫だったから…という意識では大変危険です。気象情報や避難情報などを参考に、各家庭の状況に応じて早めの避難を心がけてください。

土砂・洪水ハザードマップでは、土砂災害のおそれのある区域を以下の通り示しています。

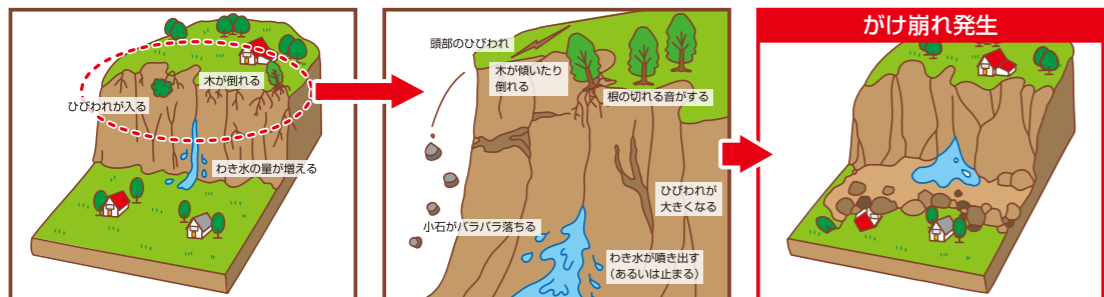
土砂災害 特別警戒区域(レッドゾーン)	建築物に破損が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域
土砂災害 警戒区域(イエローゾーン)	土砂災害のおそれがある区域



土砂災害の種類

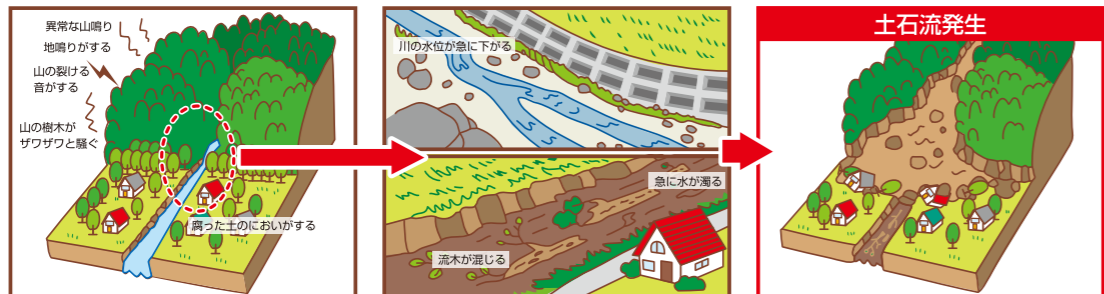
がけ崩れ

地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



※上記は一般的な前兆現象です。全ての場合において必ず起きるというものではありません。普段と違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

避難行動のポイント

土砂災害は突発性が高く、甚大な被害をもたらします。上記の前兆現象は、経験則として土砂災害発生の前に感じられるものとして知られていますが、特に警戒区域内においては避難の猶予がほとんどないものと考え、「様子がおかしい」と感じたら、ただちに避難行動をとってください。

- 土砂災害警戒区域内、また指定が無くとも「谷の出口」や「がけの下」からは、いち早く避難する。
- 指定避難所までの移動が困難な際は、近隣の堅牢な建物の高層階へ避難する。
- 外出にも危険が伴う状況で、やむなく自宅に留まる場合は、2階以上の出来るだけ山側から離れた部屋に移動する。



土砂災害警戒情報について

大雨警報の発表中に、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、対象となる市町村を特定して警戒を呼びかける情報で、都道府県と気象台から共同で発表されます。詳細な範囲については「危険度分布」で確認できます。しかし、特に警戒区域周辺にお住まいの方は、実際の周囲の状況や雨の降り方にも注意し、土砂災害警戒情報が発表されていなくても、危険を感じたら、迷わず自主避難を行いましょう。



記録的短時間大雨情報について

大雨警報の発表中に、数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨が観測された時に、気象台から発表される情報です。この情報が発表されたときは、お住まいの地域で、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。実際にどこで災害発生の危険度が高まっているかを「危険度分布」も合わせて確認してください。



洪水・浸水害について

氾濫の種類

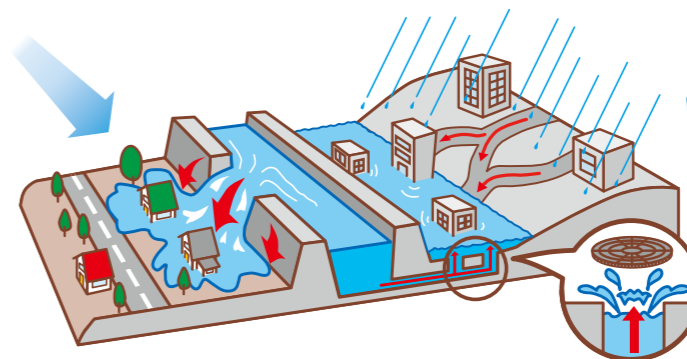
雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を超える、あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増すため、最大の注意が必要。

内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはききれず溜まって起きる洪水。的確なタイミングで警報や避難指示を出すのが難しいため、注意が必要。



避難行動のポイント、危険な場所

- 浸水が始まる前に早めの避難を**
氾濫水は勢いが強く、大人の膝程度の深さで歩行が困難となる。浸水してから自宅外への避難は危険。気象予報や河川洪水予報などの情報をもとに、身の危険を感じたら自主的に避難を開始する。
- 状況に応じた避難を**
周囲の状況が危険で避難場所まで移動できない場合は、自宅や近隣の頑丈な建物のできるだけ高い階に避難する。移動途中であっても、危険を感じた場合は、近隣の建物のできるだけ高い階に退避する。
- やむなく浸水の中を歩く際は**
裸足、長靴は厳禁。水中で脱げづらい紐靴などが適している。また、氾濫水は濁っているため、水面下が確認できない。長い棒などを杖替わりとし、側溝やマンホール、障害物に注意する。
- こんな前兆はすぐ避難**
●空が急に真っ黒になった。
●冷たい風が急に吹き出した。
●雷鳴や稲妻、大粒の雨や雹(ひょう)が降り出したら建物内へ避難。
- 地下室、地下街は危険**
地下にいる場合、地上の様子が把握しづらく、避難経路が限定される。また、地上が冠水すると、一気に水が流れ込んでくる場合もある。停電の可能性も高く、脱出が困難となる。
- アンダーパスは危険**
道路や線路の下をくぐるアンダーパスや地下道は、洪水の際、真っ先に浸水する。場所を把握し、迂回路を想定しておく。